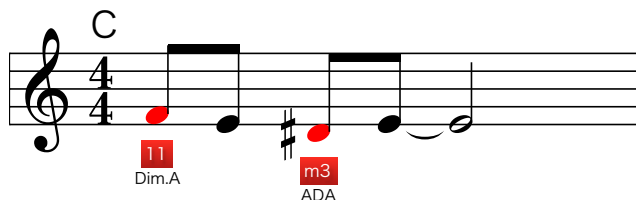


第7回 応用Harmonizing②

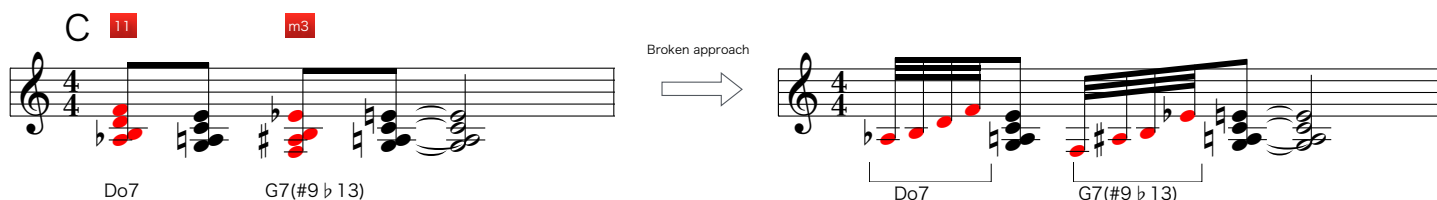
Broken approach

【定義】 Apコード構成音を任意に分散和音化できる。

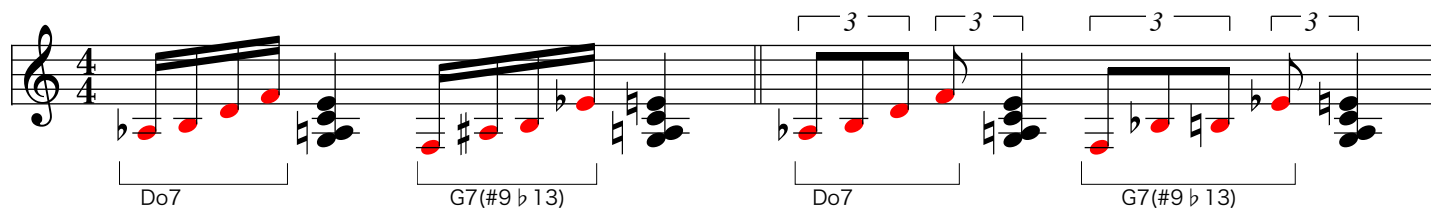
【3-2 Etude1】



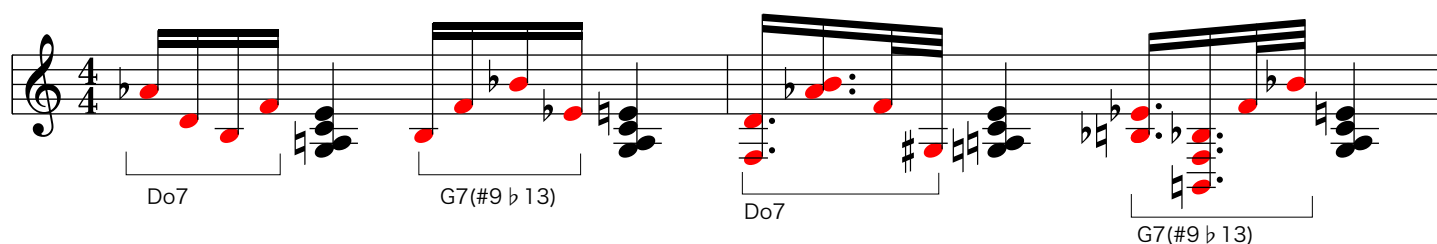
ApコードであるDim.A=Do7 ADA=G7(#9 ♭ 13)を分散和音化します。



問題は分散和音の「時間」です。通常、Apトーンの限界時間は「1秒」と言われます。Broken approachの時間を変化させてメロディの時間軸を変えてみます。どこまでが許容範囲かは個人差があります。



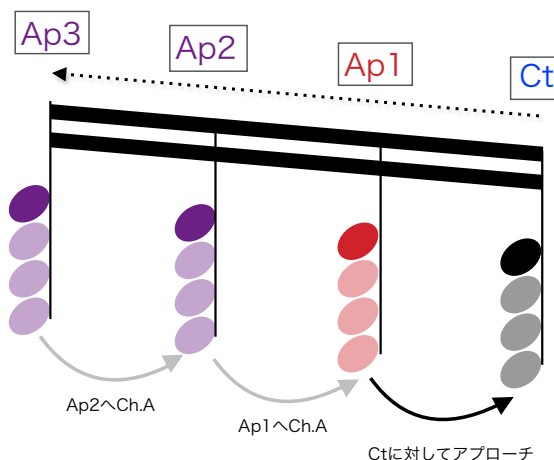
和音型での分散も可能です。さらにLeaping approachと組み合わせてみます。



Expanded approach

【定義】 Ctから見たApコードのライン上に遡って、新たなApコードをCh.A(クロマチックアプローチ)で配置させて拡張することができる。

Expanded approachのイメージ



Ap1のアプローチ種別に関係なく、Ap2→Ap1、Ap3→Ap2はそれぞれCh.Aを用います。拡張されたAp(2,3...)は当然クロマチックの動きとなります。フレーズ作りにおいてクロマチックの動きは非常に柔軟性があることがわかります。

Ctへ全音でスケールトーンアプローチをする場合でも、Apコードに対してExpanded approachを用いてクロマチックなフレーズを作ることができます。また、Delayed approachと組み合わせることも可能です。